

# 区の課題 大学と解決図る

探訪  
@  
港北ニュータウン

1994年に発足した都筑区は青葉区と並び、市内で最も「若い」区だ。97年に都筑区に横浜キャンパスを開いた東京都市大学は、区とタッグを組み、地域課題の解決や街づくりに取り組んでいる。

2月24日、横浜キャンパスであった研究発表会。学生9件、区職員1件の発表があり、学生の研究テーマは投票、遊歩道、緑地管理など多岐にわたった。



研究成果を発表する東京都市大の学生＝横浜市都筑区

た。  
4年の相原悠平さん(22)は地域住民の公園、緑地愛護会の活動を研究。参加者のつながりは

公園や緑道単位で、高齢化で身体的な負担が大きくなっていったため、地域全体で活動することを提案した。

見も出て、富田さんは「既存の方法の徹底化に重点を置いてしまった。もっと新しい提案ができればよかった」と話していた。

3年の今野唯さん(21)は、キャンパス内の森林の有効活用を目的に実施した森林環境教育「森の楽校」を報告した。昨年秋に所属する研究室などの主催で、小学生を対象に開催。保護者を含め22人が参加し、カエデの種子を扇風機で飛ばし、どのように飛散するかなどを観察した。「子どもたちが喜んで参加してくれた。自然に興味を持つ素晴らしい機会になった」と今野さん。

2003年度から続く発表会は今回で14回目。都筑区と大学は長年、連携して、地域の課題解決に取り組んできた。区は抱える課題と情報を提示し、課題について教員、学生が調査、研究する。区は学生の提案を関係部署に伝え、業務の参考にしてもらっている。

1年生富田未来さん(19)は3人は「若年層の投票参加へのアプローチ」を発表した。若者の政治への関心を高めるため、議員が高校生と議論する討論会を年2回開催する制度の義務化、若者が集まる場所に啓発ポスターを張る、などを提案した。発表後、会場からは「もっと具体的な提案がほしい」と厳しい意見

10年2月には両者で「連携協力に関する協定書」を正式に締結。昨年は学生に依頼して区内の地場企業の魅力を紹介するポスターを作成し、展示会も開いた。

吉崎真司副学長は「地域貢献は大学の使命。学生も地域に出て、区役所や住民と接触して、実践的な勉強ができ、人間的な成長にもつながります」。

(高木和男)

●この記事・写真等は朝日新聞社の許諾を得て転載しています。(承諾書番号 A16-2915)  
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。